

「私、もうこの街で虹なんて見られないって思ってたわ。」

にじ

— わたしたちの日記帳 —

(作：田中真則 上板橋第一中学校演劇部)

太平洋戦争末期、都市部の空襲が激しくなるなか、政府は学童疎開を決定した。
修学旅行気分で汽車に乗った「わたしたち」に待ち受けていたことは……。

戦争の時代を一生懸命に生きた「わたしたち」の友情と望郷の物語をぜひご覧ください。

*** 日時** 2018年1月8日(月祝)

東京都大会第4日目 6番目の上演

午後3:00頃上演予定

*** 会場** 大田区民プラザ大ホール(入場無料)

(東急多摩川線下丸子駅下車1分)

*** 上演** 板橋区立上板橋第一中学校演劇部

太平洋戦争末期、都市部の空襲が激しくなるなか、政府は学童疎開を決定した。修学旅行気分で汽車に乗った「わたしたち」に待ち受けていたこととは……。

わたしたちの地元板橋区は、昭和19年12月3日から翌年の8月10日まで、実に18回に及ぶ空襲があり、板橋区全体で亡くなった方は500名、被害建物は12,000軒、災害にあった方は60,000人余を数える大きな被害をうけました。

特に被害が大きかったのは、昭和20年6月10日に上板橋地区を襲った空襲です。250kgの爆弾が116個投下され、亡くなった方は269名、重傷者86名、建物全半壊499棟、被災された方は2,467名にのぼりました。

昨年度、わたしたちは地元で起こった空襲について調べるとともに、地域の方々から戦時中の貴重な話をうかがいました。それらをもとに、「花火—いたばしの空・昭和20年6月10日—」という脚本をつくり、板橋連合学芸大会で上演しました。今年度は、「板橋の学童疎開」を題材として脚本をつくり、このたびの都大会で上演します。

戦争の時代を懸命に生きた「わたしたち」の友情と望郷の物語をぜひご覧ください。

〔キャスト&スタッフ〕